

平成29年度（第61回）
岩手県教育研究発表会発表資料

外国語活動／外国語 分科会

小学校英語の教科化を見据えた
新たな指導プログラムの開発

平成26～29年度 文部科学省「外国語教育強化地域拠点事業」
第4年次報告

平成30年2月9日（金）

紫波町教育委員会
紫波町立日詰小学校
教諭 三浦久寿
教諭 藤原香織
紫波町立赤石小学校
教諭 阿部勲寿
教諭 佐々木妙子
紫波町立古館小学校
教諭 日向速人
教諭 猿田三樹子
紫波町立紫波第一中学校
教諭 澤田直美
教諭 木村千秋
岩手県立紫波総合高等学校
教諭 山影 徹
教諭 三浦 仁美

目 次

I	小学校の実践研究	P 1 ～ 9
II	中学校・高等学校の実践研究	P10～30
<付録>	資料 1 ～ 4	P31～36

I 小学校の実践研究

1 はじめに

小学校5～6年生の「外国語」では、「外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いを理解し、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、自分の考えや気持ちを伝え合ったりすることができる基礎的な力を養うとともに、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」こと、小学校3～4年生の「外国語活動」では、「外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養うとともに、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」ことを目標に、日々の活動を進めている。

そして、小学校卒業時には、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を身に付けさせ、「外国語」や「外国語活動」を通して互に通じ合い、英語を用いてやりとりできるということに喜びを感じ、自信をもちながら英語の力を高めたいという意欲をもった子どもを育てていきたいと考えた。

そこで、小学校中学年では学年発達段階に応じた体験的な学習活動及び文部科学省提供の絵本教材を用いた実践と実践事例の検証、小学校高学年においては、中学年の活動を踏まえた思考（類推）を伴う活動を取り入れ、ドリル的な活動だけでなく創造的な活動も取り入れていくことを実践している。また、昨年度より、週3回15分間の短時間学習（モジュール活動）を教育課程に組み込んで試行し、通常の45分授業との効果的な関連の在り方についての実践と実践事例の検証に取り組んでいるところである。

2 文部科学省提供の「絵本教材」を用いた実践

中央教育審議会教育課程企画部会の「論点整理」（平成27年8月26日）では、中学年の「外国語活動」の内容として、「中学年からは、外国語学習への動機付けを高めるため、体験的に『聞く』『話す』を中心とした「外国語活動」を通じて、言語や文化についての体験的理解や、音声等への慣れ親しみ等を発達段階に適した形で養うとともに、指導内容・方法や活動の設定、教材の工夫により、指導の効果を高めることが必要である」という記載がある。

このような議論、提言を受け、文部科学省は小学校の新たな外国語教育のための中学年用補助教材を開発した。研究開発校では、配布されたこの補助教材を用いた実践を行い、その効果を検証することとなった。

（1）中学年用絵本教材について（文部科学省の基本的な考え）

- ・3年生用「In the Autumn Forest」（教室用大型絵本・児童用小型絵本）
- ・4年生用「Good Morning」（教室用大型絵本・児童用小型絵本）
- ・3～4年生用「Hi, friends! Story Books」（デジタル教材）

① 絵本教材の活用

- ・コミュニケーションは、「聞く」ことから始める。

↓

聞いて相手の話していることがわかる体験をたくさんさせる。

↓

聞かせる工夫の1つとして、絵本の読み聞かせをする。

（絵から情報を読み取り、状況を理解しながら聞くため、「聞いてわかる」体験をさせやすい）

② 読み聞かせの仕方

「Hi, friends! 2 指導編」では、読み聞かせの留意点として、以下をあげている。

ア ジェスチャーをつけ、表情豊かに読む。

- イ 児童に絵や筋について時折質問をしながら、絵本の世界に引き込むようにする。
 ウ めくる際に、次に起こることを予想させる等、その後の展開に興味をもたせる。

(2) 実践例 (4年生用「Good Morning」)

① Hi, friends! 2 Lesson6 What time do you get up?

時間	目標	主な活動例	評価規準
1	・動作や時刻の言い方を知る。 <small><知識及び技能></small>	・ストーリーブック タイム (読み聞かせ) ・チャンツ ・ナンバーリレー	・動作を表す言い方を発話している。
2	・動作や時刻の言い方に慣れ親しむ <small><思考力・判断力・表現力等></small> ・生活を表す表現やその時刻を尋ねる表現を知る。 <small><知識及び技能></small>	・ストーリーブック タイム (Q&A) ・チャンツ ・キーワードゲーム ・ナンバーリレー	・尋ねられた時刻を答えている。 ・生活を表す表現や時刻を尋ねる表現を発話している。
3	・生活を表す表現やその時刻を尋ねる表現に慣れ親しむ。 <small><思考力・判断力・表現力等></small>	・チャンツ ・ナンバーリレー ・ジェスチャーゲーム ・ペアインタビュー	・1日の生活を表す表現を発話している。 ・時刻を尋ねている。
4	・生活を表す表現やその時刻を尋ねる表現に慣れ親しむ。 <small><思考力・判断力・表現力等></small>	・チャンツ ・ナンバーリレー ・クラスインタビュー	・1日の生活の時刻を尋ねたり答えたりしている。
5	・世界には時差があることに気付く。 <small><知識及び技能></small> ・相手に伝わるように工夫して自分の生活を紹介しようとする。 <small><学びに向かう力></small>	・チャンツ ・自分の1日を伝えよう ・日本の時刻と世界の時刻を比べよう ・ストーリーブック (ペアトーク)	・時差があることに気付いている。 ・進んで自分の生活を紹介しようとしている。

<4年生用絵本教材「Good Morning」を使用して>

- 第1時の導入では、大型絵本を用いて、HRTとALTで全文読み聞かせをし、話の概要を捉えさせた。そして、本単元の内容につなげ、ゴールを示した。
 ⇒ALTは英文を指さしながら読み聞かせをし、HRTは台詞の部分でジェスチャーをしながら読んだ。児童は絵や既習の表現、ジェスチャーを手がかりに内容を推測していった。また、次の展開を予測させるなどの工夫をして絵本の世界に興味をもたせた。
- 第2時の導入では、所々で本時の中心内容である時刻を尋ねる活動を取り入れながら再度読み聞かせを行った。
 ⇒絵本の読み聞かせを通して何度も表現に触れさせることができた。また、児童を巻き込んで一緒に尋ねたり答えたりする活動も取り入れ、聞くだけでなく、話す活動にもつなげ、その後の活動にスムーズに移行できるようにした。



【interactionで引き込む…絵などをもとに受け答え】



【ジェスチャーをつけながら読み、理解を深めさせる】

- 第5時の最終段階では、小型絵本を用いてペアでのフリートークを行った。

⇒本時で学習した時刻を尋ね合う表現、及びこれまでに学習した表現を用いて自由に会話を楽しむ活動を行った。実際に児童が話していた内容としては、時刻について、食べ物の好き嫌いについて、好きな色について、物の数についてなどであった。友達と英語を用いて会話できたという満足感や喜びが感じられた。

<児童の感想>

- ・好きな色などを聞いたら、〇〇君が答えてくれたので、うれしかった。
- ・ミニブックを使って友だちと質問し合って話せたので、楽しかった。

3 効果的なモジュール活動の組み方、位置づけ、実施内容、他の教育課程との関わり

地域拠点校3校では、平成32年度開始の新学習指導要領完全実施へ向けて（5・6年生の英語年間時数70時間、週当たり2コマとなる）、週1コマ+週3回のモジュール活動（短時間活動）を試行し、時数の確保及び通常の45分授業とモジュール活動との効果的な関連の在り方についての実践と検証を行っている。

(1) 指導の実際

① 活動時間

モジュール活動は週3回を基本とし、各校で次の通りに時間の設定をした。

(1回15分×週3回=45分を35週)

学校名	曜日	活動時間
日詰小学校・赤石小学校	水・木・金	朝活動：8時15分～8時30分（15分×3回）
古館小学校	火・木・金	朝活動：8時15分～8時30分（15分×2回） 木曜日のみ5校時ゆとりの時間（15分×1回）

② 活動形態

各校5・6年生とも学年単位で実施し、それぞれの学級担任が役割を分担し実践した。

③ 活動に使用した教材

市販のDVD教材“SWITCH ON!1”，Hf1・2のチャンツを基本に、「だれでもモジュール活動ができる」ことを目標とした。平成28年度2学期からは、モジュール活動をより有効に活用するために「授業に連動したモジュール活動」の展開を目指し、教材開発を行うと共に、モジュール活動の充実を図ってきた。

④ モジュール活動の展開

モジュール活動を実践する際の目的としては、「予習」、「復習」、「予習と復習」を兼ねた3種類が考えられるが、今単元では授業との連動を研究の中心に据え、「予習と復習」を1単位時間に組み込んだ形で展開した。

(2) 実践例

ここでは、実践例として古館小学校5年生が行った授業「Hf1 L5 What do you like?」と連動したモジュール活動を紹介したい。15分と限られた時間の中に多くの活動を取り入れているため、モジュール活動の流れをパターン化したりテンポ良く進めたりすることを意識して実施した。

Hf1 L5 モジュール活動案 6/12

過程	活動内容	留意点・教材・教具
導入 5分	【Warming up】 1 あいさつ ・体調や天気に関する質問	・大型TV ・PC ・SWITCH ON !1 DVD (市販教材)

展開	<p>【Activity】</p> <p>2 DVD 視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> • Story • Action • Song <p>3 オリジナルチャンツ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 好きな色や形などの尋ね方と答え方 <p>【Writing】</p> <p>4 ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> • What letter? game (グループごとに背中に書かれた文字を当てるゲーム) 	<ul style="list-style-type: none"> • DVD のストーリーに合わせてジェスチャーを行う。 • リズムボックス • リズムボックスに合わせて行い、前時で扱った内容から取り上げる。 • 本時につながるキーワードを扱う。
9分		
終末 1分	<p>【Looking back】</p> <p>5 あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 次時の学習内容を予告し、意欲付けを図る。

① Warming up

- 簡単な定型表現を用いた日常会話を行うことで英語に取り組む動機付けを行ってきた。
- 市販の DVD 教材「SWITCH ON!1」を活用し「Phonics」を行っている。1年間続けて実践し、アルファベットの読みと音の違いを感じさせたことで、発音もよくなってきている。

② Activity

- 市販の DVD 教材「SWITCH ON!1」を使い、継続して「Story・Action・Song」に触れさせることで、英語の音声を聞き分けることにも慣れ、ALTの発問を理解することが多くなってきた。
- Hf1L5 のチャンツを活用することで、授業との繋がりを意識させると共に意欲の向上を図った。
- 4 5 分の授業で使う表現「What do you like?」や色を表す英単語等をオリジナルチャンツに取り入れ、繰り返し練習させることで定着が確実になるようにした。

③ Writing

- 新学習指導要領の実施時には評価項目として「書くこと」が加わるが、「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句」や「基本的な表現を書き写す」となっていることから、モジュール活動で十分発話させ慣れ親しんだ語句から書く活動を取り入れた。
- 声に出して書いたり体を使って書き順を確かめさせたりし、書く活動への苦手意識をなくすようにした。
- 「Phonics」で学習した単語と連動させることで、英単語の綴りと音の繋がりを意識させた。
- Hf1L5 で学習する単語を洗い出し、書く活動の際に触れさせるようにした。

(3) 児童の感想

- 英語の授業以外にもモジュールをやると自信がつくから、続けてほしい (6年生)
- チャンツなどもあって楽しく英語の学習ができる。(6年生)
- 少しずつ覚えられるのでいい。(6年生)
- 金曜日は、英語の授業の前にモジュールで勉強するので、予習みたいで、英語の時間の内容が分かりやすい。(5年生)



・アルファベットの大文字が書けるようになってうれしい。

(5年生) 【6年生モジュール活動の様子】

4 パフォーマンス評価等、様々な評価方法の実践及び評価の観点の再吟味

小学校「外国語」の評価については、全ての児童が「成就感・達成感」を感じ、英語を用いてコミュニケーションする気持ちが前向きになるような評価を行うことが大切だと考える。

したがって、評価の際には、児童が身に付けた知識や技能を活用できるようなコミュニケーション場面を設定していくことが必要である。そのような場面と切り離し、語彙・構文・語順などの知識を問う評価スタイルはなじまない。「ゆっくりはっきりと」した明瞭な音声で問うこと、聞き返しを許容すること、相手の理解の様子に合わせて分かりやすく繰り返すこと、イラストや写真と結び付けたり自らの表情・ジェスチャーを添えたりすることなど、通常のコミュニケーションでは必要な努力を、パフォーマンス評価の場でも、児童・テスター双方とも行うべきであると考えられる。

また、コミュニケーションを行う場面は、HRTやALT等と1対1にするなど、一人で切りぬけることで、児童の達成感につながるような評価にすることも重要である。

(1) パフォーマンス評価

パフォーマンス評価とは、「ある特定の文脈のもとで、様々な知識や技能などを用いて行われる人のふるまいや作品を、直接的に評価する方法」のことである。

これは、「パフォーマンス課題」と「ルーブリック(rubric: 評価指標)」によって構成される。

「パフォーマンス課題」とは、現実的な場面や状況を設定し、それまでに身に付けた知識及び技能を必然性をもって使いこなすことを求める課題である。

そして、どのような力を、どの場面で評価するのかをあらかじめ定めておき、どの程度できれば目標に達したとみなすのか、その到達レベルを設定した評価指標が「ルーブリック」である。



【HRTによるパフォーマンス評価の様子】

① パフォーマンス評価の方法及び場の設定

- ア HRT、ALT等による、既習事項を用いた児童との英語による対話を行う。
- イ その学期に学習した単語や表現をHRT等が引き出す質問を学期末に行い、児童のそれまでの成果を評価する。
- ウ 極端にフォーマルな形ではなく、リラックスした雰囲気の中で実施する。
- エ 1対1や数人による集団面接等を組み合わせることも可能である。
- オ 児童がカードを持ち、HRT等と学習した単語や表現を使った会話を楽しむスタンプラリー形式で行う。評価する側は、児童の英語に多少の誤りがあっても、既習の単語や表現を用いてコミュニケーションを図ることができたかどうかで判断する。
- カ 再チャレンジの場を保障し、ほとんどをA評価とする。

② パフォーマンス評価前の注意点

- ア どんな内容を表現できればよいのかを事前にモデルで示す。
- イ 児童のなすべきことは何かを伝える。
- ウ 誰を相手にやりとりするのかを伝える。
- エ コミュニケーション場面を伝える。
- オ 評価の観点をしっかり伝える。(A・B段階)

③ 評価規準例 【資料1～4(P32～36)を参照】

④ 児童の感想

- ・日常会話も引っかけからずと言えたし、必ず言うところではないところも言えたので良かったです。今回のテストで、実際に英語でやりとりをする感覚が分かったので、また他

の人と英語で尋ねたり答えたりしたいです。(6女)

- ・全部の場所で、緊張せずすらすらと言えたので良かったです。前日に一人勉強で復習をしていたので、途中でかむこともなく言えたので良かったです。3学期は、もっとはっきりした声で言えるようにがんばりたいです。(6女)
- ・緊張して引っかかってしまったけど、最後まで言えて良かったですし、習ったことがちゃんとできました。曜日や日付が少し分からなかったけど、ロバートさんに「Excellent!」と言われて自信もついたし、うれしかったです。(6女)
- ・今まで学習したことを生かして、間違えずにすらすら言えたので良かったです。今後も英語を活用していきたいです。(6男)
- ・習ったことを覚えていたことが分かって良かった。これからも覚えて、役立てていきたいと思った。(6男)
- ・ときどき緊張して英語が分からなくなるので、緊張しないでもっとすらすらと言えるようにしたいです。でも、今日はいつもより楽に言えたので、いつでもこれくらい言えるといいです。途中で英語を忘れたけど、できたので良かったです。(6男)

⑤ パフォーマンス評価の成果

- ア 児童のゴールを見据えた指導計画の作成が可能となる。
- イ 評価規準を示すことで指導のねらいが明確となる。
- ウ 高評価の姿を児童に示すことで、児童に達成感を感じ取らせやすい。
- エ 英語を用いてコミュニケーションできた達成感から、意欲の継続が見られ、それ以降の学習の動機付けとなる。



【ALTによるパフォーマンス評価の様子】

オ 実際の場面から切り離し、前後関係なく音声のみで何かを尋ねたり、単に語彙や構文を問うたりするスタイルを廃し、実際的な場面を設定して評価できている。具体的には、置かれた場面、コミュニケーションの相手や意図・目的を明確に設定して児童と共有したり、イラストや写真を用いたり、聞き返し・言い直し・繰り返しを許容したり、教師の発話や発問に児童から返ってくる反応から生きて働く知識及び技能の高まりを見とろうとしたりなど、実際のコミュニケーションの流れの中で評価することである。

(2) ポートフォリオ評価

学習シートや授業の最後に書かせる「振り返りシート」, 「Hi, friends! Plus のCAN-DO リスト～振り返り～」などを、それぞれの児童に1冊のファイルに綴じさせ、3つの観点に関わる内容について、「振り返りシート」を活用して、授業ごとに自己評価させる。

学期末には、それぞれのシートを最初から振り返る時間を作り、3つの観点において、自分の学びの変容を考える時間を設定する。ただし、教師や児童の負担になりすぎないような方法を考える必要がある。

(3) 通知表評価について…3段階評価による観点別評価

※ただし、全員クリアまでもっていくことで、実際はAとBの2段階という結果になった。

① 評価項目

ア 簡単な英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

〈学びに向かう力〉

イ 身近で簡単なことについて話される英語を聞いて、話し手の意図などを理解することができる。

〈思考力・判断力・表現力等〉

ウ 身近で簡単なことについて、英語を用いて自分の気持ちや考えなどを話すことができる。

〈思考力・判断力・表現力等〉

エ 基本的な音声，文字・符号を使うことができる。 〈知識及び技能〉

② 通知表所見例

アに関わって

- ・英語の学習では，自分の思いが伝わるようにスピーチすることができ，友だちのスピーチを聞いたり，班ごとの交流を楽しんだりすることができました。

イに関わって

- ・英語の学習では，何度も友だちとやりとりすることで，一日の生活を簡単に紹介する表現を理解することができました。

ウに関わって

- ・英語の学習では，英語での職業の表し方や日本語との違いが分かり，将来の夢について積極的に尋ねたり答えたりすることができました。

エに関わって

- ・英語の学習では，チャンツやアルファベット五目並べを通して，アルファベットの欧文の読み方や発音，リズムを理解することができました。

(4) 年度末評価について（指導要録）… 3段階評価による観点別評価と設定

※ ただし，全員クリアまでもっていくことで，実際はAとBの2段階という結果になった。

① 評価の観点

学習到達目標に沿った評価の観点の設定

② 評価の方法

児童の活動の観察，自己評価や相互評価，ALTやHRTとの対話

評価の観点	評価の方法
主体的に学習に取り組む態度 〈学びに向かう力〉	⇒児童の活動の観察，自己評価等から
定型表現を用いたコミュニケーション能力 〈思考力・判断力・表現力等〉	⇒通知表の(イ)，(ウ) パフォーマンス評価等から
聞くこと・話すことに関する知識・技能 〈知識及び技能〉	⇒主に英検Jr. ブロンズテスト結果から

5 成果と課題

(1) 成果

- 単元の導入で絵本の読み聞かせをしたことにより，児童は集中して絵本の世界に入り込み，内容に興味をもって本単元に入ることができた。
- 本を用いたことによって，話を「聞く」ことや内容，展開を予測することにより，「聞いて分かる」体験をさせることができた。
- 絵本の主人公や友達的生活と自分の生活を比べることにより，自分の生活を見直すきっかけにもなった。
- 小型絵本を用いて自由にペアトークしたことにより，英語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを味わわせることができた。
- 本単元の実践のみでなく，他学年の活動の中でも絵本の読み聞かせを取り入れることにより，どの学年でも児童が楽しみながら絵本の世界に入り込み，「聞いて分かる」体験をさせることができた。また，活動の中で出てきた表現への自然な慣れ親しみにもつながり，有効だった。
- 授業との連動を考えたモジュール活動を展開することで，子どもたちが安心して45分の授業に入ることができた。
- モジュール活動，45分授業と繰り返し音やセンテンスに触れることで学習内容の定着を図ることができた。

- モジュール活動の展開パターンをどのレッスンでも共通にすることで、学習内容が多めでも児童がスムーズに学習を行うことができた。
- 毎週、外国語に接する機会を多く（モジュール×3回＋45分授業×1回＝計4回）することにより、外国語に対する抵抗感を軽減することができた。また、学習内容の理解を深めるとともに既習事項を生かして新しい学習に取り組むことができた。
- 授業場面、パフォーマンス評価場面ともに、対話の場面や相手を明確に設定し児童に伝えることにより、現実感、分かりやすさを保障することができた。
- 「振り落とし」や「差別化」を図るのでなく、課題をクリアして成就感とモチベーションアップを狙ってパフォーマンス評価ができた。また、パフォーマンス評価の際に再チャレンジの機会を設定したことにより、ほとんどの児童をA評価まで引き上げることが可能となった。
- 事前にパフォーマンスの場、及び評価規準をモデルで示したことにより、内容等について児童と共有することが可能となった。
- 学習後のパフォーマンス評価の結果に向上が見られた。尋ねられたことに、ためらうことなく自然に答えることができた。
- 単元ごとにふり返しシートを作成、用意することにより、指導目標をふまえた自己評価が可能となった。
- 毎時間ではないが、単位時間の指導過程の中に児童一人一人とやりとりする時間を設定したことにより、既習の表現の定着状況を確認するよい機会となった。

(2) 課題

- 絵本教材の活用に係り、今回は時刻の単元に組み込んで使用してみたが、絵本教材のみでも十分単元として扱える要素もあると感じた。また、別な観点からみると他の単元でも用いることができると感じたので、今後さらに、より効果的な使い方について模索していく必要がある。
- 文部科学省の補助教材の活用についてはもちろん、他にも指導に生かせる絵本を探し、学年の実態や活動内容を考えた上で積極的に取り入れる必要がある。
- 絵本の内容等について、尋ねられたことに答えるだけでなく、児童の側から尋ねる場面を設定するなど、双方向のやりとりが必要である。
- 絵本の読み聞かせにおいて、視線を合わせたり笑顔でやりとりしたりする等、言葉だけではなく表情やジェスチャーを活用したコミュニケーション場面を設定する必要がある。
- 1セット3コマなど、一連のまとまりの中、活動のパターンをそろえる一方、曜日ごとに学習内容に変化をもたせる工夫が必要である。
- 新人・若手でも、ベテランでも、転入教員でも、誰もがモジュール活動を行えるような、モジュール活動と45分授業の年間計画の作成について、新教材の導入も見すえる必要がある。
- モジュール活動で何度も何度も繰り返し発音させるからこそ、ALTなどの質の高い音声・正しい音声をより多く聞かせたり、気づかせたり、聴取・発音への緊張感を持続させたりする工夫が必要である。また、自らの発音を磨く意識、不正確な発音を見逃さず指導していく意識を高めたり、その手立てを考えたりする必要がある。
- 単元のゴールを見据え、児童のコミュニケーション活動に必要な定型文をモジュール活動に位置づけられるような指導計画を作成する必要がある。
- 「書くこと」は、「話すこと」「聞くこと」以上に個人差が大きいので、モジュール活動時の児童の負担感が増大しないよう、学習シート等の作成に配慮する必要がある。
- 場面、形態に即したパフォーマンス評価のもち方について吟味する必要がある。
- 行っている評価方法に係り、児童の評価の受け止め方がどうであったかを感想等から検証し、今後の評価の在り方の改善を続ける必要がある。
- パフォーマンス評価のもち方、評価規準の共通理解を図るために、評価者の事前打ち合わせ・評価のシミュレーション等が必要不可欠である。

- 各パフォーマンス課題に取り組ませる際に、自分の出番が来るまでの時間の使い方を吟味する必要がある。

※ ただし、複数の評価者によって行う際は：
例えば、評価者3名（X先生、Y先生、Z先生）、評価項目3問（①、②、③）、子ども3グループ（A、B、C）だとして、
☆X先生はAに尋ねる係、Y先生はBに尋ねる係、Z先生はCに尋ねる係として、それぞれから①、②、③をまとめて尋ねる …で終了。
よりは、
☆X先生は①を尋ねる係、Y先生は②を尋ねる係、Z先生は③を尋ねる係として、A、B、Cが3人の先生をグループでローテーションして受ける
…方式の方がぶれにくい評価となったことから、こちらを優先すべきである。

<主な参考文献>

英語教育相談室 創刊号 光村図書（2017）

英語教育 7月号 大修館書店（2015）

英語教育 8月号 大修館書店（2015）

英語教育 11月号 大修館書店（2015）

英語教育 12月号 大修館書店（2015）

初等教育資料8 東洋館出版（2015）

公益財団法人 中央教育研究所研究報告 No.82 平成26年4月30日発行

カリキュラムマネジメントの考え方・進め方 加藤幸次著 黎明書房

今求められる学力と学びとは 石井英真 日本標準

II 中学校・高等学校の実践研究

1 はじめに

(1) 中学校英語科の基本的考え

小学校中学年で「活動型」の外国語活動を週1コマ体験してきた児童が、高学年では教科として英語を週2コマ学習して中学校へ入学した時に、中学校ではそれまでの小学校の指導を活かしながら指導することで、円滑に英語学習をスタートすることができるようになる。そのために小中相互の授業参観や実践交流は欠かせない。平成26年から毎年小学校3校の授業を参観してきたが、英語を「分かりたい」、英語で「相手に伝えたい」という小学生の前向きな姿を見て、中学校においてもその気持ちを持続できる授業の工夫や充実を図っていく必要を感じている。

また、中学校には高等学校への橋渡しの役割もあり、中高連携についても併せて考えながら取り組まなければならない。平成27年度に紫波総合高校の第1学年の生徒を対象にした意識調査では、「英語が嫌い」「どちらかと言えば嫌い」と回答した生徒が全体の約6割いることが明らかになった。

本校から紫波総合高校に進む生徒も毎年40名程度いることから、中学校で英語嫌いにしない指導の工夫が重要課題と考えている。この中高連携については、授業交流を中心に据え、共同の取組も実施する必要がある。

(2) 小中高8年間で英語力を育成するための取組

この事業の中学校側の研究推進は、まず小中連携からスタートした。紫波第一中学校学区には小学校が3校あるが、授業参観を通して、それぞれの取組内容や重点になるものが異なることがなく、同一歩調を進めることを要望してきた。同じスタートラインに立っていることを前提に、中学校において小学校での外国語活動や教科としての英語学習を踏まえて入門期の指導を工夫するとともに、音声から文字への指導、英語を英語で指導する授業、中高の接続を考えた指導の改善と充実についての研究を進めることにした。その取組をEnglish Joint Program(図1)と名付け、4つの柱を立て取り組んでいる。

図1

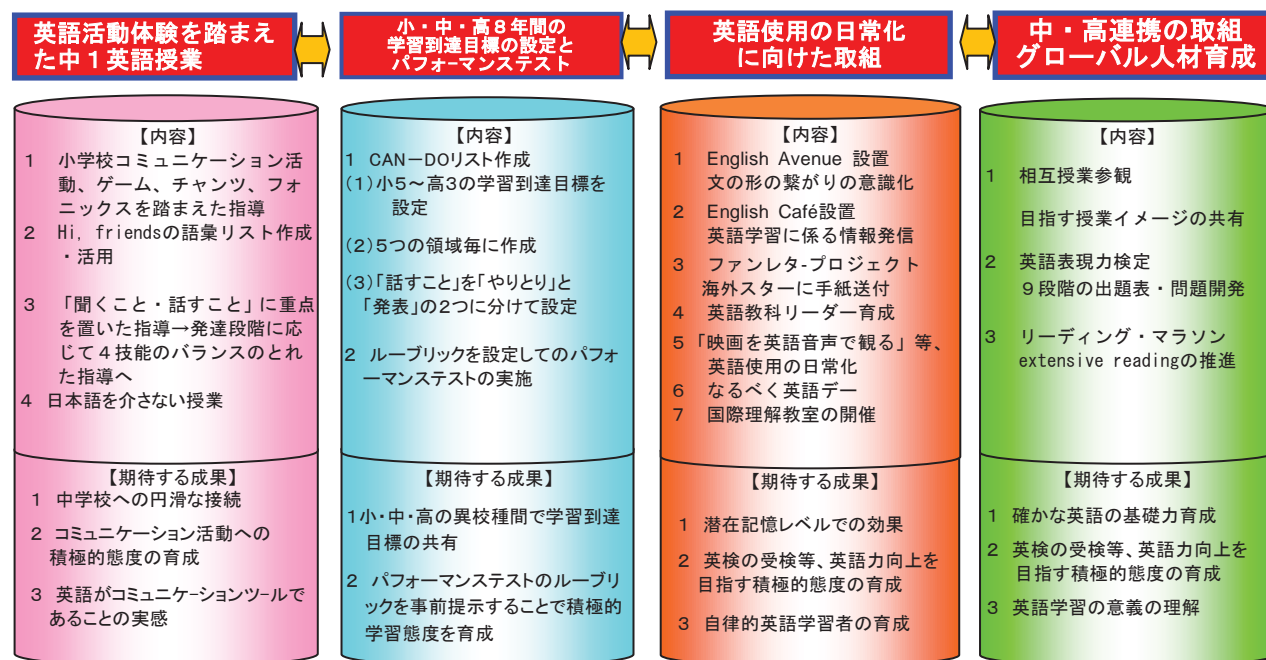
English Joint Program の概念図

【主たる成果】

1 小学校英語とのジョイント

2 主体的学習態度と確かな英語力の育成

3 高校英語とのジョイント



2 小中連携を意識した中1での英語授業づくり

(1) ゲーム

教科書のLet's Startやアクションコーナー等で小学校で特に慣れ親しんできたキーワードゲームやポインティングゲームを使用している。生徒は小学校で行った活動のルールを声に出しながら楽しく参加している。この事業がスタートして、小中相互の授業参観の機会が増えたことで生徒がどのような学習を積み重ねてきたのかが分かり、反応を予想しながら授業を組み立てることができるようになった。ビンゴゲームもインタビュー活動でよく使用しているが、英語表現に慣れるための活動であることを理解させ、会話では日本語禁止や相手の発言を聞き返したり、確認したりするなどのルールを徹底して取り組ませる必要がある。

(2) チャンツ

基本文導入の前に、小学校の英語教材Hi, Friends!にあるチャンツをウォームアップとして使用した。小学校のように映像を見せることはしないが、関連する絵を見せたり、チャンツの歌詞を見せたりしながら、小学校で学んだ表現を想起させるのに役立っている。生徒は、笑顔で「聞いた!」「歌った!」と、楽しく学んでいた雰囲気を思い出してチャンツを歌い出し、その後のパターンプラクティスにも、円滑に移行することができた。また、中学校の文法練習用の新たなチャンツを使用する時も、よく音に反応している。特に文字を読んだり、書いたりすることは苦手けれども「話すことは好き」という生徒が、リズムに乗って英語表現を楽しみ、1フレーズ聞かせると続けて歌い出す場面も多々見られた。

Hi, Friends!から使用したチャンツは、次の通りである。

chants	Hi, Friends!	Sunshine 1 で使用した単元
What do you study?	1 Lesson 8	Program 4-1 What do you study on Monday?
How many balls?	1 Lesson 3	Program 4-3 How many CDs do you have?
What time do you get up?	2 Lesson 6	P-U 4 Speaking 時刻をたずねる
Can you swim?	2 Lesson 3	Program 8-2 Can you ski?

CHANTS for Grammar (アプリコット出版) から使用したチャンツは次の通りである。

chants	Sunshine 1 で使用した単元
アルファベット (名前と音)	Program 1 ①②
My name is Larry. (動詞)	Program 2-1 Hi, I am Yuki. Oh, you are Yuki.
I have a pet. (一般動詞)	Program 3-1 I like music.
Don't do that. (命令文)	アクションコーナー Play baseball. Don't play baseball.
Vocabulary Songs (7曜日・天候・12か月)	Word Web 2 曜日と天気の言い方 Word Web3 季節・月の名前と順番・日付の言い方
Look! More than one. (名詞の複数形)	Program 4-2 I have two pencils.
What're these? (代名詞の複数形)	Program 5-1 What's this? Program 6-2 What are these?
He has. She has. (三単現)	Program 6-2 My sister plays it too.
The little one? The big one? (形容詞)	P-U5 Speaking 持ち主をたずねる
I am walking. (現在進行形)	Program 9-1 I'm cooking now.

(3) 英語の歌

教科書の巻末に英語の歌が4曲紹介されているので、その中の「Sing」という1970年代にカーペンターズが歌ってヒットした曲の聞き取りクイズから歌をスタートさせた。生徒が楽しそうに

歌う様子から、英語学習の雰囲気作りに効果的であると考え、これまでに毎月1曲のペースで授業の導入部分で歌っている。曲選択の基準は、表現が難しくなく、歌詞の繰り返しが多く親しみ易いことである。使用した曲は次の通り。

時期	授業で歌う曲	歌手
5月	Sing	Carpenters
6月	Hello Goodbye	The Beatles
7月	Yellow Submarine	The Beatles
8-9月	Stand by Me	Ben E. King
10月	Close to You	Carpenters
11月	A War Is Over	John Lennon
12-2月	Eternal Flame	Bangles

カーペンターズ
「SING」のCDジャケット

ザ・ビートルズ
「Yellow Submarine」のCDジャケット

また、英語の歌を授業に導入する意義は次の通りと考えている。

	英語の歌を授業に導入する意義
1	英文と日本語訳を見ながら、「英語ではこんな言い方なんだ」と気づく。
2	語句のまとまりや英語独自のリズムを感じ取ることができる。
3	歌いながら、音の連結や消音等、英語の音声上の特徴を無意識に習得する。
4	外国の文化の一つとして、外国の歌を家でも聴いてみようとの動機づけになる。

(4) 音声を重視しながら、文字へつなぐ指導

4月のオリエンテーションから5月にかけて、アルファベットの大・小文字の確認、及びヘボン式ローマ字表記の学習のためにアルファベットカードを活用している。また、フォニックス学習と絡めながら、簡単な単語について音をヒントに文字を組み立てるゲーム等にも取り組んだ。

更に、小学校で音声中心の授業に慣れ親しんできたことを踏まえ、基本文の導入には具体的な場面を取り入れた Teacher's Talk を聞かせターゲットを捉えさせた。教科書本文の導入では補助的にピクチャーカードを用いて、オーラルインターアクションにより概要を把握させている。その後、教科書本文を見せて、具体的な内容の読み取りを行った。概要把握のやりとりでは、積極的に英語で伝えようとする態度が見られるようになってきた。

(5) 理解可能なインプットの工夫

中学校3年間では、高校受験で問われる多くの英語に関する知識（語彙、表現、文法等）を短期間に身に付けさせなければならないという現実があるため、文法項目を明示的に指導する必要も出てくる。したがって、理解可能なインプットを与えるだけで英語を身に付けさせるのは非現実的との声も多い。

本校では、新教材の導入に当たっては、情報のやり取りの必然性がある場面をできるだけTTで提示し、「表現内容」「形式」に気づかせながら指導する暗示的指導に心がけている。具体例として、第2学年の比較級、最上級の授業では、右のように3つの計算問題を提示し場面設定して暗示的指導を実施した。

- ① $2a + 8a$
- ② $(x - 7)(x + 2)$
- ③ $\sqrt{32} - (\sqrt{2} + 2)^2$

Question2 is more difficult than Question1
Question3 is the most difficult of the three.

3 8年間を見通した学習到達目標の作成

学区内の小学校と近隣の高等学校用が各学校段階の学びを接続し、8年間を通じて一貫して使用できるよう協議しCAN-DO形式で学習到達目標を作成した。CEFRを参考にした文部科学省の『外国語等における小・中・高等学校を通じた国の指標形式目標』にならい、学習到達目標を「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5つの領域毎に示

小・中・高の8年間を見通した学習到達目標

必要に応じ、随時修正するものである。

紫波町立日語小学校・赤石小学校・古館小学校
紫波町立紫波第一中学校
岩手県立紫波総合高等学校

ver. 2.3 平成29年度版

	レベル	聞くこと Listening	読むこと Reading	話すこと(やりとり) Spoken interaction	話すこと(発表) Spoken production	書くこと Writing
高3	CEFR-J B1.1 ～B1.2 英検 2級	自然な速さの標準的な英語で話されている一般的な事柄(社会問題、時事問題)を聞いて、メッセージの概要とともに詳細も聞き取ることができる。	新聞や一般的に書かれた文章(エッセイ、簡単な論文など)を読んで、その要旨や書き手の主張を理解し、複数の視点の相違点や共通点を比較しながら読むことができる。	社会問題や時事問題等の一般的な事柄について、即興で感想を述べ合ったり、議論したりすることができる。	社会問題や時事問題等の一般的な事柄について、自分の意見を述べ、相手を納得させることができ、聴衆から質問があれば相手に理解できるように答えることができる。	社会問題や時事問題等の一般的な事柄について、ある程度の長さの文章を、相手を納得させるよう論理の要点や表現を工夫しながら書くことができる。
高2	CEFR-J A2.2 ～B1.1 英検 準2級	外国の行事や習慣などに関する説明や、少し長めの議論を聞いて、概要・要点を理解することができる。	物語や伝記、説明文などを読み、自分の感想や意見を述べるように、その内容や大切な部分を整理しながら、読むことができる。	様々な伝統や文化に関する内容や、発明・発見など科学技術や自然に関する内容について、自分の意見を説明したり、問答をすることができる。	様々な伝統や文化に関する内容や、発明・発見など科学技術や自然に関する内容について、順序だて、話しを広げながら、少し長めのスピーチをすることができる。	様々な伝統や文化に関する内容や、発明・発見など科学技術や自然に関する内容について、いくつかのパラグラフで、まとまりのある文章で書くことができる。
高1	CEFR-J A2.1 ～A2.2	日常生活の様々な場面で話される自然な速さの英語を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章や身の回りのあらゆる情報(チラシ、ガイドブックなど)を読んで、要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。	自分が学んだ話題や自分の興味や経験の範囲内の話題について、説明したり、情報を交換したりすることができる。	自分が学んだ話題や自分の興味や経験の範囲内の話題について、まとまった内容でスピーチをすることができる。	自分が学んだ話題や自分の興味や経験の範囲内の話題についてある程度の長さの文章(作文や報告)で相手に分かりやすく工夫して書くことができる。
中3	CEFR-J A1.2 ～A2.1 英検 3級	身近な話題(家族・学校・地域など)や興味・関心のある話題(社会的・科学的話題など)に関するまとまりのある話や会話を聞いて、概要や情報の関連性(原因・結果の関係など)を理解できる。また、話し手の意図、意見などを理解できる。	身近な話題(家族・学校・地域など)や興味・関心のある話題(社会的・科学的話題など)について書かれたまとまりのある英文を挿絵・図表を手がかりに読み、概要・要点や情報の関連性(順序、原因・結果の関係、比較など)を理解できる。また、書き手の意図を理解し、自分の意見をもてる。	身近な話題(自分・家族・学校・地域など)について、簡単な英語や文を用いて即興で一連の質問をしたり、答えたりできる。また、話題に対して、自分の考え・意見を付け加えたり、話し合ったりできる。	写真や図などを利用してながら、身近な話題(経験したこと、計画・予定、大切にしているものなど)について、簡単な英語や文を用いて即興で話すことができる。また、構成を考えてまとまりのあるスピーチや説明ができる。さらに、自分の考えや意見を付け加えることができる。	身近な話題(経験したこと、計画・予定、大切にしているものなど)について、全体の構成や文と文とのつながりを考えながら、簡単なまとまりのある文章(紹介文、記事など)を書くことができる。また、自分の意見やその理由なども書くことができる。
中2	CEFR-J A1.1 ～A1.2 英検 4級	身近な話題(家族・学校・地域など)や興味・関心のある話題(社会的・科学的話題など)に関する簡単な短い話や会話を聞いて、概要を理解できる。	身近な話題(家族・学校・地域など)や興味・関心のある話題(社会的・科学的話題など)について書かれた簡単な短い英文を挿絵・図表を手がかりに読み、概要・要点を理解できる。また、書き手の意図を理解できる。	身近な話題(自分・家族・学校・地域など)について、簡単な英語でいくつか質問したり、答えたりできる。また、自分の気持ちや感想を付け加えることができる。	写真や図などを利用してながら、身近な話題(経験したこと、計画・予定、町の紹介など)について、簡単に短いスピーチや説明ができる。また、自分の気持ちや感想を付け加えることができる。	身近な話題(経験したこと、計画・予定、町の紹介など)について、全体の構成を考えながら、簡単な数文の英文を書くことができる。また、自分の気持ちや感想を書くことができる。
中1	CEFR-J PreA ～A1.1 英検 5級	身近な話題(家族・友人・学校・好きなことなど)に関するごく簡単な短い話や会話を聞いて、中心となる情報や具体的な情報(日付・曜日・時間・場所・数字など)を理解できる。	身近な話題(家族・学校・好きなことなど)について書かれたごく簡単な短い英文を読み、中心となる情報や具体的な情報(日付・曜日・時間・場所・数字など)を理解できる。	身近な話題(家族・友人・学校・好きなことなど)や具体的な情報(日付・曜日・時間・場所・数字など)について、ごく簡単な英語で質問したり、答えたりできる。	写真や実物などを利用してながら、身近な話題(自己紹介・人・ものの紹介など)について、ごく簡単に短いスピーチや説明ができる。	身近な話題(自分・家族・友人・学校・好きなことなど)について、ごく簡単に短い英文を書くことができる。
小6	CEFR-J PreA	ゆっくりと話された身近で具体的な事柄を数単語や文を聞き取ることができる。	音声で慣れ親しんだ語句や表現の意味を理解できる。	身近な話題(家族・日課、趣味など)について、基本的な語句や定型表現を使って、質問したり、答えたりすることができる。	身近な話題(家族・日課、趣味など)について、基礎的な語句、定型表現を使って、簡単な情報を伝えることができる。	目的をもってアルファベットの欧文・小文字をブロック体で書くことができる。例文を参考に、音声で慣れ親しんだ語句や表現を書き写そうとする。
小5	CEFR-J PreA	ゆっくりと繰り返して話された挨拶やごく簡単な指示を聞き取ることができる。	アルファベットを認識し、発音できる。	身近で簡単なことについて、初歩的な単語や表現を聞いて、やりとりすることができる。	簡単な語や基礎的な句を用いて、自分についてのごく限られた情報(名前、年齢など)を伝えることができる。	アルファベットの欧文・小文字を書き写すことができる。

し、関係校の生徒の実態を踏まえ目標レベルをCEFR-J Pre AからCEFR-J B1と設定した。この到達目標は各学年末を見据えたものであり、後に評価規準を具備した年間指導計画作成へとつながった。

学習到達目標の作成は、「できること」を可視化 (visualization) することであり、自律的学習の促進につながると考えている。

平成27年に「8年間を見通した学習到達目標」を作成後、平成29年9月までに5回の修正を重ねてきており、今後も必要に応じ修正を加えていくことになる。

4 パフォーマンステストの実施

(1) 身に付けさせたい資質・能力「思考力、判断力、表現力」

学校教育法第30条に「思考力、判断力、表現力」が示されている。本校英語科では、実際のコミュニケーションの場面で情報を整理しながら考え等を形成し、表現したり、伝え合ったりすることができることが「思考力、判断力、表現力」の評価対象であると捉えている。このことを踏まえ、計画的にパフォーマンス評価を実施している。

教科書には、各Programの学習を経て「できるようになること」を示したMy Projectがあり、これに合わせて計画的に「話すこと」のパフォーマンステストを行っている。使えるレベルに到達したかどうかは、実際に出力してみないとわからない。英語を使って〇〇できるようになった」という成長の自覚を生徒にもたせることが内発的動機づけとして大切と考えている。

(2) CAN-DO 形式の学習到達目標と単元目標の関連

「話すこと（やりとり）」及び「話すこと（発表）」の2観点で作成したのが表2である。

【表2】

		話すこと(やりとり) Spoken interaction	話すこと(発表) Spoken production
中3	学習到達目標	身近な話題(自分・家族・学校・地域等)について、一連の質問をしたり、答えたりできる。また、話題に対して、自分の考え・意見を付け加えたり、話し合ったりできる。	写真や図などを利用しながら、身近な話題(経験したこと、計画・予定、大切にしているもの等)について、構成を考えてまとまりのあるスピーチや説明ができる。また、自分の考えや意見を付け加えることができる。
	My Project 8 日本語を紹介しよう		・日本の伝統行事や文化についての50語程度のスピーチ原稿を文章構成を考えながら、書いて発表することができる。
	My Project 7 あの人にインタビューしよう	・有名人とインタビュアーになって、50語程度のインタビュー番組のスキットを作り、演じることができる。	
中2	学習到達目標	身近な話題(自分・家族・学校・地域など)について、簡単な英語でいくつか質問したり、答えたりできる。また、自分の気持ちや感想を付け加えることができる。	写真や図などを利用しながら、身近な話題(経験したこと、計画・予定、町の紹介等)について、簡単に短いスピーチや説明ができる。また、自分の気持ちや感想を付け加えることができる。
	My Project 6 CMを作ろう	・ペアで自分の理想とする発明品を説明するコマーシャルを演じることができる。	
	My Project 5 スピーチをしよう		・将来の夢についてスピーチをすることができる。
	My Project 4 スキット作りを楽しもう	・6～8文のスキットを作り、演じることができる。	
中1	学習到達目標	身近な話題(家族・友人・学校・好きなこと等)や具体的な情報(日付・曜日・時間・場所・数字等)について、ごく簡単な英語で質問したり、答えたりできる。	写真や実物などを利用しながら、身近な話題(自己紹介・人やものの紹介等)について、ごく簡単に短いスピーチや説明ができる。
	My Project 3 知りたい情報を引き出そう	・具体的な情報(氏名・職業・年齢・住所・身長など)について質問したり、答えたりできる。	
	My Project 2 人を紹介しよう		・5～6文程度で好きな人を紹介するスピーチをすることができる。
	My Project 1 自分のことを話そう		・5～7文程度の自己紹介のスピーチをすることができる。

(3) テスト実施の具体

「話すこと・発表」では、次のようなステップを踏みパフォーマンス評価を実施している。特に①-ウ、エは、論理性を高めるために不可欠な指導であると考えている。

① 事前指導

- ア 評価表（ルーブリック）を生徒に示し、目標を共有する。
- イ My Project で既習表現を復習し、スピーチ原稿の作り方を確認する。
- ウ 情報を整理しながら考えを形成させる。その際、時系列でまとめること、考えの次に理由を述べること、求められている内容を記すこと、論理的で分かり易い構成とすること等を指導する。「話すこと・やりとり」の場合は、ダイアログが自然な流れになっているかどうか留意させる。
- エ 複数段落の場合、トピックセンテンスにサポーターセンテンスを加えさせる。
- オ S評価に当たる発表映像を視聴させ望ましい音声、ジェスチャー等のイメージをもたせる。
- カ 練習時間を確保する。

② テストの進め方

- ア 発表者は、教室前面でスピーチする。
- イ スピーチ後、他生徒やALTの質問に答える。
- ウ テスト後に自己評価させる。



【テスト前の練習の様子】

(4) 「話すこと（発表）」の指導 第1学年1学期

① 指導計画

1年2学期 my Project 2 「人を紹介しよう」では、4時間で単元を構成し指導した。

- 第1時 2つのモデル文を通して、他者紹介文に役立つ表現を復習する。
- 第2時 マッピングを使って構想し、「導入」「本文」「結び」を意識してスピーチ原稿を書ける。
- 第3時 スピーチ原稿を基に発表練習をする。
- 第4時 聞き手を意識して、原稿を見ないでスピーチができる。

② 学習シートの例

授業のゴール、ルーブリック、自己評価等を1枚の学習シートにまとめた。次に例を示す。

Self Evaluation Card

Class [] Number [] Name []

My Project 2 人を紹介しよう Class [] Name []

Attitude (挙手・発言・参加態度・予習/復習)
 A: 積極的に取り組めた B: 指示に従って取り組めた C: 忘れ物等があり、十分に学習できなかった

Your Level (達成状況) A: 目標が達成できた B: 達成できた C: 復習が必要

	Today's Goal	CAN-DO	Attitude	Your Level
1	2人のスピーチを通して、他者紹介文に役立つ表現を再復習する		A	A
2	構成を考えながら、スピーチ原稿を書くことができる。	Writing-6	A	A
3	スピーチ原稿をもとに、発表練習をする			
4	聞き手を意識して、原稿を見ないで発表できる	Speaking-8		

Evaluation Points ~Writing~

	A 4点	B 2点	C 1点
内容	・他者について趣味・特技などについて詳しく書けている。 また、その人に対する気持ちも書いている。 ・多様な表現を用いて、作文としてのまとまりがある。	・「他者について趣味・特技」などについて書けている。 ・作文として完成している。	・他者について書いているが、今やまとまりに欠けている。
構成	・「はじめのあいさつ」と「終わりのあいさつ」を記している。 ・6文以上で他者紹介が書かれている	・「はじめのあいさつ」と「終わりのあいさつ」を記している。 ・4・5文で他者紹介が書かれている	・「はじめのあいさつ」と「終わりのあいさつ」を記している。 ・1～3文で他者紹介が書かれている
文法・綴り・英文を書くルールなどの正しさ	・間違いがほぼない。 ・作文中に1つ程度	・何か所か間違いがある 作文中2または3	・間違いが多い 作文中4つ以上
総合判定	A (12～10)	2	
	B (9～4)		
	C (3～1)		
	D 0		

Class [] Number [] Name []

Hi everyone.

Look at this girl?

This is Horiuchi Hana.

She sings ~~songs~~ very well.

She has a brother.

She lives in Shiwa.

She is very kind.

She is a cute girl.

I like her very much.

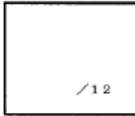
Thank you.

～Speaking～

Categories (項目)	Point (得点)		Criteria (評価基準)
声の大きさ	3	Excellent	・聞いている人に伝わるように、大きくはっきりした声で発表できたか。
	2	Good	
	1	Poor	
アイコンタクト 姿勢	3	Excellent	・アイコンタクトがしっかりでき、堂々とした態度でスピーチを続けることができたか。
	2	Good	
	1	Poor	
発音 リズム ポーズ	3	Excellent	・英辞らしい発音に注意していたか。 ・リズムがあり、意味がよく伝わってきたか。 ・間の取り方が適切だったか。
	2	Good	
	1	Poor	
Q&A	3	Excellent	・先生の質問を理解し、積極的に答えようとしていたか。
	2	Good	
	1	Poor	

テストの進め方

- ① 庶務の順番で行う。ALTの先生に評価表を渡す。
- ② ALTの先生の前で発表する。原稿は持たない。
- ③ ALTの先生は発表中の質問に答え、その後、発表内容について1つ質問をする。
- ④ ALTの先生の質問に答える。



●英語で会話するための便利な表現

聞き直す	もう一度言ってください。	Pardon (me)? Can you say that again?
間をつなぐ	え〜と	Let me see...
	う〜んと	Well...
うなづく	うん。うん。	Uh-huh.
	なるほどね。	Oh, I see.
反応する	ホント? へえ!	Really? / Wow!
	え〜。そんな!	Oh, no!
	私も!	Me, too. / Me, either. (私も〜でない)
	すごいね!	Great!
	いいね!	That's nice!

<自己評価>

評価表をもとに、自己評価をしよう!

- ① わかったこと、よくできたこと、がんばったこと

大きな声で発表できたと思う。

- ② あまりできなかったこと、これから頑張りたいこと

- アイコンタクト姿勢をできるようにになりたい。
- ポーズも取り入れるようにしたい。

- ③ 思ったこと、感じたこと (自由一言)

- ポーズなどのジェスチャーをいっぱい取り入れている人がいい居た。
- 笑顔で発表できるように私もなりたい。



【話すこと (発表) の様子】

この例では、4時間のそれぞれのゴールと attitude, 達成状況のレベル, 評価ポイント, 原稿, スピーチの際の留意すべき4つの観点, 文章法による自己評価・相互評価欄等を一体的に示すことで、生徒に学習の見通しを示すとともに、学習履歴が分かるようにした。

③ 自己評価の生徒記述 (1年 My Project 2)

【よくできたこと】

- ・明るい声で発表できた。
- ・どんなことを伝えればよいかを考えて文を作ることができた。

【これから頑張りたいこと】

- ・発表後の受け答えをすぐにできるようにしたい。
- ・間が空いてしまった時、Well...などを使えばよかった。次は反省を生かし頑張りたい。

【思ったこと、感じたこと】

- ・別室で1対1でやるのと比べ全体の前でやるのは緊張した。
- ・みんなの発表を聞くのがとても楽しかった
- ・皆の発音が上手で、外国に来たみたいだった。
- ・Kさん、Sさん、Mさんの発表がとても聞き取りやすく、発表も上手だった。

(5) 「話すこと (発表)」の指導 第2学年2学期

① 指導計画

2年2学期 My Project 5 「私の夢についてスピーチをしよう」では、次のように6時間で単元を構成し指導した。

- | | |
|-------|----------------------|
| 第1時 | モデル文の構成がわかる。 |
| 第2時 | スピーチ原稿の構想を立てることができる。 |
| 第3~4時 | スピーチ原稿を書くことができる。 |
| 第5時 | 原稿を基にスピーチを練習する。 |
| 第6時 | スピーチができる。 |



【話すこと (発表) の様子】

② ルーブリックについて

パフォーマンス評価では、教師による主観的な評価にならないよう、パフォーマンスの熟達度を評価するルーブリックを使用している。2年2学期 My Project 5 「私の夢についてスピーチをしよう」では、次のルーブリックを設定した。

観点・基準	S	A	B	C
内容語数	スピーチの構成にしたがい、60語以上のスピーチをしている。	スピーチの構成にしたがい、50語程度のスピーチをしている。	スピーチの構成にしたがい、50語に満たないがスピーチをしている。	スピーチの構成にしたがっていない。
正しさ	発音、文法、表現が適切で内容が十分に伝わる。	発音、文法、表現に少し誤りがあっても内容が伝わる。(ミス5つ迄)	誤りがあっても内容を伝えようとしている。	誤りが多すぎて、伝わらない。
伝え方	原稿を見ず、聞き手を引きつける工夫(補助資料や表情、ジェスチャー)をしている。	原稿を見ず、聞き手を引きつける工夫(補助資料や表情、ジェスチャー)をしている。	聞き取りにくさがあったが、内容を伝えようとしている。	伝えようとする気持ちや工夫がない。

ルーブリックの観点や基準として、「内容の豊かさ」「英語としての正しさ」「ジェスチャーや視線、表情等の伝え方」を設定している。

「書くこと」の評価でも同様にルーブリックを作成し、定期テストに出題している。

新単元導入の授業において、ルーブリックやモデルを示すことで、生徒は何をどのくらいのレベルでできればよいのかを理解でき、パフォーマンステストに向けてモチベーションを高め意欲的に練習に取り組むことができた。

③ 生徒作品 (2年 My Project 5)

Today I'm going to talk about my father. He works at the prefectural office.
I want to be a person like him. I have two reasons. First, he is very kind. He always thinks of other people. Second, he is very interesting. When I am disappointed, he makes me happy.
I'd like to be kind in my life like my father. Thank you for listening. (65 words)

④ 自己評価の生徒記述 (2年 My Project 5)

テスト後に文章法により自己評価させた。次に紹介する。

【よくできたこと】

- ・伝えたいことを原稿として作成することができた。
- ・何度も繰り返し練習して発表することができた。
- ・覚えた文は、できるだけ英語らしく話すように努力した。

【あまりできなかったこと】

- ・覚えたことを発表するのが精いっぱい、英語らしい発音を意識できなかった。
- ・練習が足りなくて、途中で忘れてしまった。
- ・緊張してしまい、上手にジェスチャーを入れることができなかった。

【思ったこと、感じたこと】

- ・アイコンタクトとジェスチャーを使えば、相手に良く伝えることができることがわかった。
- ・練習に時間をかけると発表できるようになることが分かった。
- ・間違った所や、ひっかかる所を何度も練習し直すことが大切だとわかった。

(6) 「話すこと(やりとり)」の指導 第3学年1学期

単元名： My Project 7 「あの人にインタビューしよう」

① 指導計画

「話すこと（やりとり）」の中学3年生の学年末の目標を「身近な話題（自分・家族・学校・地域等）について、簡単な語句や文を用いて即興で一連の質問をしたり、答えたりできる。また話題に対して、自分の考え・意見等を付け加えたり、話し合ったりできる。」と設定している。この目標に向けて、これまでのMy Projectで学習してきたことを活用し、インタビュー形式のやりとりを通して、1人はインタビュアーとして質問したり、相づちを打ったり、詳しく説明を求めたりし、もう1人はテレビ番組のゲストになったつもりで考え・意見をテレビ視聴者に伝えることをねらいとする。事前に原稿を作成するため、即興的に話すことにはならないが、インタビューの後に自由質問の場面を設けて、即興的なやりとりにも積極的に挑戦させたい。

3年1学期 My Project 7 「あの人にインタビューしよう」では、次のように6時間で単元を構成し指導した

第1時	インタビュー記事を読んで使えるような表現を理解する。
第2時	エジソンとインタビュアーになって質疑応答の練習をする。
第3～4時	ペアでインタビュー番組の台本を作ることができる。
第5時	<u>伝える工夫をしながら、ペアで協力して練習できる。</u>
第6時	ゲストの生き方や考え方を伝えるインタビュー番組を作ることができる。

② 第5時の展開

段階	学習項目	学習活動	指導上の留意点（評価）
導入 12分	1 あいさつ 2 Warm-up（定型表現練習） 3 モデル提示 4 学習課題の把握	・あいさつをする。 ・ペアで定型表現の練習をする。 ・JTEとALTのモデルを聞き、概要を理解する。 ・学習課題を確認する。	・ペアで協力して活動する雰囲気づくりと定型表現の文のインプット
	伝える工夫をしながら、ペアで協力してインタビュー番組を演じよう		
展開 35分	5 伝え方の工夫の確認	・前回のパフォーマンステストの映像を見ながら、良い伝え方のポイントを確認する。 【音量・抑揚・速さ・表情・視線・動きなど】 ・ペアで練習する。	・テレビ番組でのインタビューを想定するので、カメラを通して視聴者に伝わる工夫を考えさせたい。
	6 グループ練習①	・4人グループを作り、互いのペアで発表を見せ合い、アドバイスを出し合う。 ・アドバイスを基に再度練習する。	・伝える工夫をしながら、ペアで協力してインタビュー番組を演じることができる。 (活動の観察)
	7 代表ペアの発表①	・代表ペアに発表させ、良い点を確認し共有する。	
	8 グループ練習②	・別の4人グループを作り、互いのペアで発表を見せ合い、即興で質問したり答えたりし合う。	・質問を即興的に考えさせることにより、発表を注意深く聞き取ろうとする態度を育てたい。
終結 3分	9 代表ペアの発表②	・代表ペアに発表させ、良い点を確認し共有する。	
	10 「本時の振り返り」と「今日の家庭学習」の確認 11 あいさつ	・本時の学習を振り返る。 ・家庭学習と次時の予告を聞く。 ・あいさつする。	・自己評価カードの記入

③ ルーブリックについて 本単元では、次のルーブリックを設定した。

観点・基準	S	A	B	C
内容構成	インタビュー番組の形式を用い、自然な流れでゲストの生き方や考え方を十分に伝えている。	インタビュー番組の形式を用い、自然な流れでゲストの生き方や考え方を伝えている。	インタビュー番組の形式を用い、ゲストにかかわる事実などを伝えている。	何を説明しているか伝わらない。インタビューとして成り立っていない。
語法・文法の正しさ	多様な語彙・文法を用い、表現や発音が適切である。	必要な語彙・文法を用い、表現や発音がほぼ適切である。	発音・文法・表現に多少の間違ひがある。	誤りが多すぎて、伝わらない。
伝え方	原稿を見ず、聞き手を引きつける工夫（表情、ジェスチャー）をして発表している。	原稿をあまり見ず、聞き手に伝えようとする工夫（表情やジェスチャー）をして発表している。	発表時間の1/2以上原稿を見続けたり、聞き手に伝えようとする工夫が乏しい。	発表中に原稿を見続けたり、聞き手に伝えようとする工夫が全くない。

モノログとダイログでは、自ずとルーブリックも異なる。また、実際の発表においては、生徒Aと生徒Bの両方を評価するという点で、教師による評価の困難度が高まる。

④ 生徒作品



【話すこと・やりとりに臨む生徒】

単元の目標： ゲストの生き方や考え方を伝えるインタビュー番組を演じることができる。

番組進行	Script
司会自己紹介	A: Hello, everyone. I'm () .
ゲスト紹介	B: Today we have (Mr. Uno Souichi, the Prime Minister) with us.
挨拶	A: Hello, (Mr. Uno). B: Hello. Thank you very much for inviting me here today.
Setup Question	A: May I ask you some questions?
Answer	B: Sure.
Main Question①	A: When did you become the Prime Minister?
Answer①	B: I became the Prime Minister in 1999.
Reaction	A: Uh-huh. 22 years ago. What did you do when you became Prime Minister?
Answer	B: I visited Israel as a diplomat for the first time.
Setup Question	A: Oh, That's great!
Answer	By the way, What are you good at?
Main Question②	B: I good at kendu. I have 5th dan.
Answer②	A: I didn't know that. What's your favorite food?
Reaction	B: I like Men. A: Oh, That's cool! A: I know you quit being the Prime Minister after 2 month last. Why did you quit?
Answer	B: Because of my scandal with a woman.
Reaction	A: Well, I see.
観客からQ	A: 観客に向かって Do you have any questions?
Answer	観客: B: 観客で答える
お礼と挨拶	A: Thank you for talking with us. Good bye, everyone. See you again. B: You welcome

⑤ 自己評価の生徒記述

テスト後に文章法により自己評価させた。次に紹介する。

【よくできたこと】

- ・ 原稿を考えるのは難しかったけど、身振りをつけたり、笑顔で発表したり、アイコンタクトをとったりと、たくさん工夫してみんなに伝えようと頑張った。
- ・ 前回と違い、全部覚えていたので余裕をもってジェスチャー等に集中できたのでよかった。
- ・ ゲストとインタビュアーのかけ合いを作るのが難しかったが、色々調べたり教え合ったりして台本を作りあげることができた。

【今後気を付けたいこと】

- ・ もう少しリアクションをつけてもいいと思った。
- ・ もう少し練習時間がほしい。
- ・ ジェスチャーをもっと大きくしたいと思いました。

【思ったこと・感じたこと】

- ・ インタビューの仕方が分かった。
- ・ 皆がいつもより笑顔だった。
- ・ 楽しく活動できた。人と対話するのが楽しくなった。 【他クラスの発表を視聴し学び合う生徒】
- ・ みんな、聞きやすい声、リアクションで発表できていた。
- ・ 3年生になって発表のレベルが上がった。また、この学習の取組でみんな一生懸命だった。
- ・ 練習の必要性に気づいた。練習をすると上手くなることがわかった。
- ・ 前回よりジェスチャーや声の大きさ、目を見て話すことがみんなできたと感じます。
- ・ 英語の発音が良い人もたくさんいたのすごかった。
- ・ ○○ちゃんの観客を巻き込むようなジェスチャーやセリフは、聞いていて楽しかった。



第1学年、第2学年の生徒と比べると、自己の伸長に係る記述の他に、クラスメートの良さを積極的に指摘する記述が目立つようになってきた。

ほとんどの生徒が思っていた以上に上手に発表できたと振り返り、自信を深めたようである。

また、文章法により振り返りをさせることで生徒の内面を把握できるとともに、教師が、次に生徒に支援すべき内容も把握することができた。

⑥ 評価の信頼性を高める工夫

生徒の発表を評価する場面では、あらかじめ設定したルーブリックを基にその場で評価することもできるが、多くの生徒の発表を聞いているうちに評価基準が揺らいでくることもある。また本校では、同一学年を複数の教科担当が指導することから、評価結果が指導者により異なることも考えられる。そこで、事前に教科担当間で評価についての打ち合わせ会をもったり、事後に映像を観て評価を吟味できるように発表の様子をビデオカメラに収め、評価の信頼性を高めるよう努めている。

また、このように録画することで、映像の缶詰的活用ができるようになる。具体的には、記録した映像を別のクラスで見せたり、次年度の指導の際に目指すモデルとして発表の様子を生徒に視聴させることができるようになる。

5 独自教材「EPM」の開発・活用

(1) 作成の意図

Skill Using型の指導を推進しながら「思考力、判断力、表現力」の育成を目指す時、「知識・理解領域」の指導の在り方が課題となる。具体的には、「語彙指導」及び「文法指導」である。これらを効率的に指導し、言語活動に十分な時間をかけられるようにしたいと考えた。併せて「読むこと」の指導をextensive readingの観点からどのように指導するのも本校の課題であった。そこで開発したのが、English Power Up Materials「EPM」である。内容は次の通り。

I 単語力パワーアップユニット	ページ
5級レベルの単語集	1- 5
4級レベルの単語集	6-11
3級レベルの単語集	12-15
準2級レベルの単語集	16-21
II 表現力パワーアップユニット	
ブロンズレベル1・2・3	22-24
シルバーレベル1・2・3	25-27
ゴールドレベル1・2・3	28-30
III Reading Marathon 全50回	41-90



(2) 語彙指導としての単語集

中学校1年生の5級レベルでは、食べ物、スポーツ、動物等、ジャンル毎に単語を配した。

4級、3級、準2級レベルでは、品詞毎・アルファベット順の配列である。アルファベット順に配することで単語の検索ができる。

104	【文房具】 pen	ペン	ペン
105	pencil	鉛筆	ペンスル
106	eraser	消しゴム	イレイサー
107	ball-point-pen	ボールペン	ボールポイントペン
108	dictionary	辞書	ディクショナリー
109	scissors	ハサミ	スイザース
110	glue	のり	グルー
111	book	本	ブック
112	notebook	ノート	ノウトブック
113	ruler	定規	ルーラー
114	【教室】 desk	机	デスク
115	blackboard	黒板	ブラあックボード

(3) リーディング・マラソン

ALTの協力を得て開発した読み物教材である。中1→中2→中3レベルへと段階的に学習することができ、各学年の帯活動や単元のまとめで活用している。内容に関するQ&Aだけでなく、自分の考えや理由についての設問を設定しているので、読むことを通して思考力・判断力・表現力を鍛える機会になっている。2、3年生は長期休業の課題としてリーディング・マラソンに取り組み、extensive readingとして読解トレーニングを積んでいる。

6 授業以外の取組で「英語使用の日常化」を目指す

EFL (English as Foreign Language) の環境の下では、中学生の英語使用に向けた積極的態度の育成にも限界があると考え、次のような実践を行い英語使用の日常化に向けた雰囲気プロデュースしている。

(1) イングリッシュ・カフェ

本校には、空き教室がなくEnglish Roomを設置することができないことから、廊下スペースを活用して英語学習に係る情報を発信している。ここでの主な掲示内容は、「英語学習の意義」「誕生パーティ招待状等の生徒作品」「ファンレターの生徒作品」「海外スターからの手紙」「英語検定の取得状況」等となっている。



(2) イングリッシュ・アベニュー

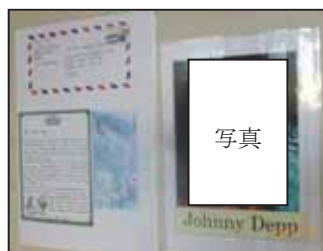
校内の英語環境作りは、潜在記憶レベルで効果があると考えている。南校舎と北校舎に中1、中2で学習する基本文型を示している。形式と形式の結びつきを理解させることを意図した取組であり、生徒たちが通る度に復習・フィードバックしたり、予習・フィードフォワードしたりできるような仕組みとした。



(3) ファンレター・プロジェクト

海外スターへのファンレター・プロジェクトを立ち上げALTの協力を得ながら指導を行った。実際に英語で手紙を書いて海外に送る言語行動の取組である。

実践手順として、教師が「学習パッケージ」を作成した上で指導した。D. クレイグ氏等から返信が届き、生徒達にとって大きな励みになった。

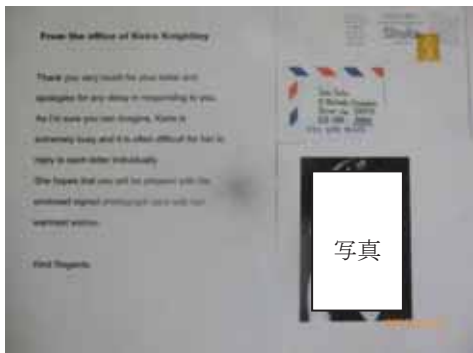


【ジョニーデップ氏に宛てた手紙】

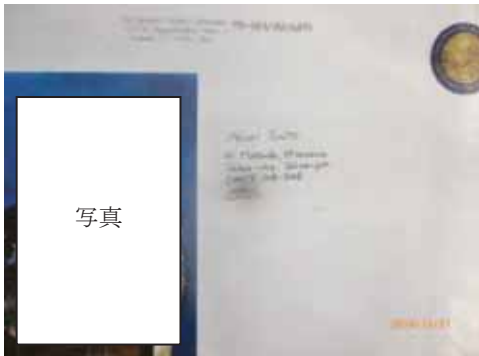
回	手順	実施のチェック
1	日本語下書き①	
2	日本語下書き②	
3	英訳①	✓
4	英訳②	
5	英訳③	
6	消書	
7	封筒表書き(下書)	
8	消書	
9	切手貼・発送目標7/21(金)	

【学習パッケージの表紙】

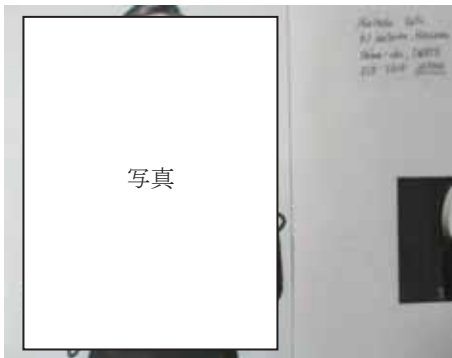
作成スケジュール	こんなことについて気をつけよう	清書の前の2回目の下書きです																																	
<p>第1日目 日本語による下書き 簡単な日本語で下書き!</p> <p>第2日目 下書き修正・完成</p> <p>第3日目 英訳下書き作業①</p> <p>第4日目 英訳下書き作業②</p> <p>第5日目 英訳下書き作業③ 完成</p> <p>第6日目 英文清書と絵 (プリクラok)</p> <p>第7日目 封筒表書き下書き</p> <p>第8日目 封筒表書き清書 (黒ペンで)</p> <p>第9日目 ① 先生から「切手」と「国際返信用切手券」をもらう。 ② 切手を封筒に貼り、封筒に「切手券」「手紙」を入れ各自が投函する。</p>	<p>1 ステップ3の先生に指導いただいた朱書き原稿を再度、下書きをします。</p> <p>2 次のことについて自己チェックしよう。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>チェック項目</th> <th>□</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ピリオド、カンマの使用</td><td>□</td></tr> <tr><td>2</td><td>単語の綴りは正しいか</td><td>□</td></tr> <tr><td>3</td><td>美しい文字か</td><td>□</td></tr> <tr><td>4</td><td>文の出だしや 人名の大文字</td><td>□</td></tr> <tr><td>5</td><td>過去形などの語形は正しいか</td><td>□</td></tr> <tr><td>6</td><td>His やherの代名詞は正しい使用か</td><td>□</td></tr> <tr><td>7</td><td>段落ごとにまとまった内容か</td><td>□</td></tr> <tr><td>8</td><td>文と文のつながりは自然か</td><td>□</td></tr> <tr><td>9</td><td>書き足したい文はないか</td><td>□</td></tr> <tr><td>10</td><td>美しく仕上がっているか</td><td>□</td></tr> </tbody> </table>		チェック項目	□	1	ピリオド、カンマの使用	□	2	単語の綴りは正しいか	□	3	美しい文字か	□	4	文の出だしや 人名の大文字	□	5	過去形などの語形は正しいか	□	6	His やherの代名詞は正しい使用か	□	7	段落ごとにまとまった内容か	□	8	文と文のつながりは自然か	□	9	書き足したい文はないか	□	10	美しく仕上がっているか	□	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
	チェック項目	□																																	
1	ピリオド、カンマの使用	□																																	
2	単語の綴りは正しいか	□																																	
3	美しい文字か	□																																	
4	文の出だしや 人名の大文字	□																																	
5	過去形などの語形は正しいか	□																																	
6	His やherの代名詞は正しい使用か	□																																	
7	段落ごとにまとまった内容か	□																																	
8	文と文のつながりは自然か	□																																	
9	書き足したい文はないか	□																																	
10	美しく仕上がっているか	□																																	



【キーラ・ナイトレー氏からの手紙】



【ジョニーデップ氏からの手紙】



【ダニエル・クレイグ氏からの手紙】



女王様ダイヤモンド・ウェディング記念
2017.11.20の消印があった。

(4) 英語教科リーダーの育成

英語教科リーダーは、各クラスから2名の選出であり、教科担任との打ち合わせや、視聴覚機器の設定、帰りの短学活での教科全体連絡等の役割を果たしている。これら一連の活動の中で、教師との打ち合わせ場面、クラス全体への指示・連絡場面においてできるだけ英語を使用させている。用途に応じた定型表現が徐々に定着してきている。

(5) その他の取組「なるべく英語デー」

校内では、全校朝会における英語による校長講話、清掃時間における即興性を意識した教師による英語での問いかけ等、家庭では、英語音声でのニュース、天気予報、映画の視聴、英語の歌詞カードを見ながら外国曲を聴くこと等、実生活における英語使用を推奨している。

7 英語スピーチコンテストの取組

県英語教育研究会主催のスピーチコンテストの出場数は200名を超える。平成28年度自作部門で本校3年生の女子が、高円宮杯全日本中学校英語弁論大会への出場権を獲得した。また、1、2年生暗唱の部では、2年生女子が第6位に入賞した。

その他、紫波郡教育研究会主催の英語暗唱大会は38回目を数える大会であり、平成28年度は出場者5名全員が入賞を果たした。出場希望者が多い場合は、校内オーディションを実施し、英語科教員が審査をする。入賞者は、文化祭のステージ部門で地域の方々にも聞いて頂いている。

平成28年度の結果は次の通りであった。

コンテスト名	部門	成績
岩手県中学校英語スピーチコンテスト	自作の部	第2位 To Be Honest with Yourself 【高円宮杯出場】 西村美樹
	1・2年暗唱の部	第6位 Zorba's Promise 齊藤愛明
紫波郡中学校英語暗唱大会	1年生の部	最優秀賞 中館千鶴
	2年生の部	優秀賞 吉田くるみ 優良賞 瀬川芽生
	3年生の部	優秀賞 藤村彩和 優良賞 菅原千乃佳



【県大会での発表の様子】

平成29年度の結果は次の通りである。

コンテスト名	部門	成績
岩手県中学校英語スピーチコンテスト	自作の部	決勝進出 My Dream My Star 吉田くるみ
	3年暗唱の部	第2位 The Fall of Freddie the Leaf 齊藤愛明
紫波郡中学校英語暗唱大会	1年生の部	最優秀賞 中村桜椰花 優秀賞 及川めあり
	2年生の部	最優秀賞 山崎唯月 優秀賞 中館千鶴
	3年生の部	優秀賞 阿部美優

なお、本校では、毎年4月に保護者に対し通知文書を発出し、「町個人情報保護条例」に基づき、生徒氏名、大会成績等の情報を第三者へ提供することについて、全保護者から承諾を得ているものである。

8 「国際理解教室」の開催

キャリア教育の一環として、また、国際理解教育の一環として、グローバル社会における英語の必要性について理解を促すために開催した。平成29年度は、県職員に採用後、外務省に4年間出向し、米国フロリダ州の領事館で2年間の勤務経験のある岩手県秘書広報室の北柝玲子氏に講師をお願いした。講師から、中学校時代にどのように英語を学んだか、英語をツールとしてどのような仕事を体験したか、海外派遣時のエピソード等について具体的にお話し頂いた。右に、聴講後の生徒作文を紹介する。



【講師の話に聞き入る生徒】

…外国の病院で「便秘」の単語が分からなくてもパニックにならず、自分の知っている表現を使って通訳したり、大津波震災の時、岩手を訪ねてきた外国人記者に通訳して説明したりとてもカッコイイと思いました。これからはもっと英語を頑張ろうと思った。(男子)

英語が使えると外国のお客様を接客できることが分かった。字幕なしで映画を観られるようになりたいし、ついでに外国で仕事をしてみたいと思いました。(女子)

9 指導マネジメントのための「英語科年間カリキュラム表」の作成

学校では、教科用図書を主たる教材として英語を指導する。そのため、教科書の単元進行管理をするための年間指導計画、評価・評定のための評価規準等を作成し指導に当たるが、本校では、様々な取組を行っており、取組全体を俯瞰できるような全体計画が必要と考え作成したのが次の表である。

平成29年度 英語科年間カリキュラム表

紫波町立紫波第一中学校

	4月	5月	6月	7月	12月	1月	2月	3月	基礎基本	思考力	判断力	表現力	学びに向かう力
第1学年	Let's Start アルファベット 辞書を引いてみよう	アメリカからの転校生 be動詞(肯定・疑問・否定) 単語・文の書き方 ウッド先生がやってきた 一般動詞(肯定・疑問・否定)	曜日と天気 の言い方 リサイクル活動 What, How manyの疑問文 /単数・複数	国際フード フェスティバル this, that, whereの疑問文 /he, she 時刻を尋ねる What time~?	A New Year's Visit 現在進行形 (肯定・疑問) 英語のしくみ③ can/現在進行形/Whatなどで始まる文	Mike's Visit to Washington, D.C. 一般動詞過去(規則) (肯定・疑問)/Whyの疑問文, Because ~.	買い物① 知りたい情報を引き出そう Grandma Baba and Her Friends on a Sleigh 一般動詞過去不規則	日記 過去の出来事、感想を書く。 英語のしくみ④ 規則動詞の過去形、不規則動詞過去形	○	○	○	○	○
第2学年	辞書を読んでみよう Did You Enjoy Your Vacation? 一般動詞・不規則動詞/be動詞の過去形/過去進行形	連休の思い出 英語のしくみ① A Trip to Finland 未来表現 be going to ~ /I will ~	天気予報と予定 What Can We Do for Others? must/have to/I think (that) ~. 電話① 英語のしくみ②	スキット作りを楽しもう Eigo Rakugo Reading (復習)	スピーチをしよう スピーチの組み立て Friendship across Time and Borders	A Video Project 比較表現 ~er than.../taller ~ est/as ~ as... 買い物② シャツを買う	So Many Countries, So Many Customs. 長い形容詞の比較表現 Yui-To Share Is to Live. 受動態	英語のしくみ⑤ CMを作ろう Her Dream Came True. Reading (復習)	○	○	○	○	○
第3学年	Classroom English 英語を使ってみよう 辞書を使いこなそう A History of Vegetables 受動態(過去) 現在完了	Volcanoes in Japan 現在完了 (継続・経験) 英語のしくみ①	The 5 Rs to Save the Earth It is ~ to ... know how to ... ask ~ to ... 英語のしくみ②	あの人にインタビューしよう Faithful elephants	アナウンス(駅、空港など) Clean Energy Sources 関係代名詞 目的格	ホームページで学校紹介 英語のしくみ④	Education First: Malala's Story 卒業に向けて 思いを伝えよう	○	○	○	○	○	○
定期テスト 実力テスト			1学期末試験			実力テスト123	3学期末試験	実力テスト12年	○	○	○	○	○
パフォーマンス テスト				1年 スピーチ 自分の事を話そう 2年 スキット発表 3年 スキット発表 (インタビュー形式)			1年 インタビュー Q&A 2年 CMのスキット発表			○	○	○	○
英語表現 力検定				1年ブロンズ1 2年シルバー1 3年ゴールド123	1年ブロンズ 2年シルバー2		1年ブロンズ3 2年シルバー3		○	○	○	○	○
英語検定 I B A 県学調等		申込受付	第1回英検	2次試験指導	申込受付 I B A (3年) 分析・補充	第3回英検 CAN-DOテスト	2次試験指導		○	○	○	○	○
ファンレター プロジェクト		募集	パッケージ配布 作成支援	完成・発送						○	○	○	○
小中高連携				公開授業研①		町研究所発表	県教育研究発表	研究のまとめ	—	—	—	—	—
スピーチ指導			県自作部門募集	県暗唱部門募集 英語のプロに学ぶ						○	○	○	○
キャリア 講演会										○	○	○	○
リーディング マラソン				夏季 →→ 冬季 →→						○	○	○	○
English Cafe	常設	→→→	→→→	→→→	→→→	→→→	→→→	→→→					○
English Ave	常設	→→→	→→→	→→→	→→→	→→→	→→→	→→→	○				
海外研修					オーディション	事前指導	海外研修	事後指導		○	○	○	○
その他				質問紙調査①	質問紙調査②				—	—	—	—	○

この表を作成することで、「教科書の指導内容」「6種類の評価」「8種類の実践」及び、それらの指導時期を意識して日々の業務に当たりカリキュラムのマネジメントができるようになった。

10 中高連携の取組

(1) 相互授業参観・協議

中高が相互に授業を公開し、全英語教員が参観して研究協議をもっている。このことで、目指す授業及び目指す生徒のイメージを共有している。授業参観後の協議では、授業の成果を認め合うとともに、生徒の実態、指導上の課題、取り組むべき実践等についても意見交換している。



【公開授業の様子】

(2) 英語表現力検定

平成28年度以降、中高一貫で英語力を伸ばす取組として『英語表現力検定』を新規に実施している。言語活動にできるだけ多くの時間を使えるよう効率的に文法指導をするために、また、英語嫌いの生徒にも達成感をもたせたいとの意図から、中高共同で英検5～3級程度の問題を9段階で作

成した。生徒は、出題表を繰り返し学習し受検する。8割で合格としている。
次に、Silver Level-1 の問題及び合格証の様式を示す。

EJP English Joint Program 英語表現力検定問題 (Silver Level-1)

文法・表現 番号		シルバーレベル 1 の問題 (1~15)	
未来表現 ~するつもりです ~してくださいませんか ~しましょうか		未来表現には「will」又は「be going to」を用います。単語を並べ替え「私は明日テニスをするつもりです。」の文2通り完成させなさい	
	1	(tennis, play, tomorrow, I, will) → (<input type="checkbox"/>
	2	(going, play, am, to, tomorrow, I, tennis) → (<input type="checkbox"/>
	3	未来表現でよく用いられる表現① 「~してくださいませんか」の文を完成させなさい。 () () open the window?	<input type="checkbox"/>
	4	未来表現でよく用いられる表現② 「~しましょうか」の文を完成させなさい。 A: () () help you? B: Yes, please.	<input type="checkbox"/>
助動詞 ~できる ~できた ~つもりです ~してもよい ~しなければならぬ ~してはいけない ~すべきだ		「動詞」の前について、「動詞の意味を広げるもの」を助動詞という。助動詞の後で動詞は「原形」を使います。正しい助動詞を「canできる couldできた willつもりです mayしてもよい mustしなければならない must notしてはいけない shouldすべきだ」から選んで書きなさい。	
	5	I can't play the piano, but I () play the guitar.	<input type="checkbox"/>
	6	Today is cloudy, but it () be fine tomorrow. Tomorrow=明日	<input type="checkbox"/>
	7	I'm not good at English, but I () speak English at that time. at that time=その時	<input type="checkbox"/>
	8	My mother is sick in bed, so I () make breakfast this week. sick in bed=病気で寝ている	<input type="checkbox"/>
	9	A: I finished my homework. () I watch TV? B: Yes, you may.	<input type="checkbox"/>
	10	You ()() skateboard at the parking lot in Ogal. skateboard=スケートボードをする	<input type="checkbox"/>
	11	We () not throw away old clothes. throw away=捨てる clothes=服	<input type="checkbox"/>
		正しい「助動詞的な語句」「have toしなければならない don't have toしなくてもよい had betterした方がよい」を選び書きなさい	
	12	I ()() finish my English homework in the morning.	<input type="checkbox"/>
	13	We ()()() study Spanish, because we usually don't use it. Spanish=スペイン語	<input type="checkbox"/>
	14	You look pale, so you ()() go to the hospital. look=~に見える pale=青白い	<input type="checkbox"/>
	15	I can play the piano. 同じ意味になるよう書き換えなさい。⇒ I ()()() play the piano.	<input type="checkbox"/>

Bronze, Silver, Gold の各レベル 1~3 に合格する毎に合格証が授与される仕組みであり、生徒の励みになっている。

1年生は練習時の自己採点で、スペリングミスに気が付かないことも多いので、教科担任がその都度、チェックをして注意を払うように指導する。

1年生は冬休みの課題として Bronze 1, Bronze 2 を学習させ、それぞれ 1月, 2月の合格を目標に取り組みさせる。



11 実践研究の検証

(1) 質問紙調査から

- ① 実施日 平成 28 年 12 月 (上段)
平成 29 年 12 月 (下段)
- ② 目的 生徒の英語学習に係る意欲等について調査しもって英語教育の改善に資する。
- ③ 対象 紫波第一中学校 支援学級を除く全学年 平成 29 年 12 月は抽出調査
- ④ 調査方法 4 段階尺度法, 同一集団の経年変化をみる

No	項目	肯定的回答の割合 (%)			
		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	
1	基本	英語の学習は将来 役に立つと思う。	— 98.1	92.9 97.0	★ 93.1 90.9
		英語の授業はよくわかる。	— ★ 96.9	75.0 72.7	75.5 74.3
3	授業外取	【1年生のみ回答】廊下の「バスデカード」「Xマスカード」等の作品を見て、美しい文字を学ぶことができた。	— 93.8		
4	授業外取	イングリッシュ・アベニューは、英語学習に役立っている。	— ★ 96.9	64.7 81.8	51.7 63.6

5	組	イングリッシュ・カフェは、英語学習に役に立っている。	— ★ 90.6	78.6 81.8	44.8 48.5
6		イングリッシュ・カフェの「英検合格者」の掲示は、良い意味で励み・刺激になっている。	— ★ 90.6	78.6 84.8	58.6 60.4
7	英語使用の日常化	外国の映画・ドラマを英語の音声で聞いたり、英語の文字を見ながら観ることがある。	— ★ 53.1	53.6 45.5	27.6 39.4
8		NHKのニュースや天気予報を英語で聞くことがある。	— ★ 28.1	17.4 18.2	6.9 13.4
9		英語の歌詞カードを見ながらCDを聞くことがある。	— ★ 93.8	70.5 63.6	34.5 40.3
10		英語検定は積極的に受検した方がいいと思う。	— 100.0	★ 92.9 84.8	86.2 87.3
11	英語体験	いつか外国に行ってみたい。	— 75.0	64.7 72.7	65.5 ★ 70.1
12		外国に行ったことがある。	— 15.6	14.7 15.2	17.2 ★ 17.4
13		授業以外の休み時間・給食・校外で、先生・ALT・友達・外国人等と英語で話すことがある。	— ★ 53.1	50.0 37.3	41.4 50.5
14	英語表現力検定	予め出題表で内容が示されていたので取り組み易かった。	— —	89.3 —	★ 93.1 —
15		3段階構成なので進歩を実感できるし励みになった。	— —	67.6 —	★ 82.8 —
16		普通の授業を理解するのに役立った。	— —	70.6 —	★ 82.2 —
17		英語検定の勉強に役立った。	— —	67.6 —	★ 75.9 —
18		短期間に既習事項の復習ができたと思う。	— —	★ 78.6 —	75.9 —
19		プリントが分かり易く作成されていた。	— —	73.5 —	★ 79.3 —
20		賞状が貰えるので（努力が認められるので）励みになった。	— —	★ 78.6 —	55.2 —

⑤ 考察

- ア 英語の有用途意識に係る項目1は、全学年が約9割となっている。
- イ 授業の理解度に係る項目2は、7-9割台となっている。
- ウ 「授業外の取組」に係る項目3-6の肯定的回答は、6割-9割台となっている。
- エ 「英語使用の日常化」に係る項目への肯定的回答は、1年生が4項目全てで最も高くなっている。現1年生は、平成28年度に小学校で週2時間の英語学習を受けてきているが、小学校における英語体験が中学校での英語学習にプラスに働いているようだ。
- オ 英語体験に係る2つの項目11-12では、大きな学年差は見られない。
- カ 英語力表現力検定の初年度の取組については、3年生の肯定的回答が目立つ。

(2) 「実用英語技能検定」に係る学年別・級別合格者数の経年変化から

日本英語検定協会が実施する「実用英語検定」の受験者は、毎年100万人を超えている。習熟の程度に応じて自己レベルの級を受検し、段階的にステップアップすることは生徒にとって大きな励みになるし、大学へ推薦で入学できたり、履歴書に資格として記載できるというメリットがある。また、「努力した人」との評価がもらえることも大きな励みになる。

次は、平成29年12月末現在の学年別・級別合格者の経年変化である。この表を見ると、現在の本校生徒が頑張っていることが見て取れる。

		平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
合格者数	5級	45	4	0	89	69	9	22	99	71
	4級	12	35	22	13	79	75	9	46	90
	3級	4	16	30	1	18	64	1	13	67
	準2	0	2	8	0	4	16	0	1	10
	2級	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	計	61	57	60	103	170	164	32	159	240
	合計	178名			436名			431名		

11 中・高における英語授業の充実と改善

(1) 紫波総合高校における指導の考え方

本校は県内7校の総合学科高校のうち県央唯一の公立高校ということもあり、紫波町はもとより近隣の市や町からも多くの生徒が通学している。下の表の通り、紫波町内の中学校出身者は180人（約37%）、そのうち本事業に関わる紫波一中出身者は116人（約24%）である。また、生活や学習に支援が必要な生徒の割合が高く、早くからユニバーサルデザインを導入し、全ての生徒が落ち着いて高校生活を送れるような支援に取り組んでいる。学習指導においては、中学校での既習事項の復習から丁寧に取り組み、「勉強が分かる」経験を少しずつ積み重ねている。本事業における英語指導については小中学校のように対象生徒が同一ではないので、取組に困難さを感じるが、小中での指導の実態に鑑みて、本校で学ぶ生徒たちも英語を使って自分のことを表現し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度・能力の育成を目指して、指導に当たっている。

〈出身中学校別生徒数 平成29年5月1日現在〉

	紫波一	紫波二	紫波三	矢巾	矢巾北	見前	見前南	飯岡	仙北	乙部	大宮	滝沢南	東和	石鳥谷	花巻	花巻北	その他		計	学校数
																	県内	県外		
1年次	42	12	14	23	5	13	8	3	6	4	0	3	0	12	5	2	23	0	175	30
2年次	40	10	7	9	11	4	10	3	4	11	4	4	3	14	6	3	7	1	151	26
3年次	34	13	8	12	17	15	7	4	5	12	3	2	1	8	3	0	17	0	161	27
全体	116	35	29	44	33	32	25	10	15	27	7	9	4	34	14	5	46	1	486	45

180人

(2) 生徒の実態について

生徒の多くは、基本的な学習事項の定着が不十分なまま小中学校を過ごしてきており、勉強に対して苦手意識や劣等感、嫌悪感を抱き高校に入学してきている。通常の指示やスピードでは授業についてこられない、いわゆる学習障害を抱えている生徒の割合も高い。そのため、入学時の支援を手厚くしており、1年次の英語の授業では、常時英語教師2人によるティーム・ティーチングで指導している。なお、数学も同様である。

最近の生徒の傾向としては、音に対する反応が良く、音読やリスニングには意欲的に取り組む割合が増えているように感じるが、反面、音と文字との連動が不足しており、読むことと書くことに困難を感じている生徒が多い。しかし、英語を使って情報を入手したり、外国の文化に触れたり、外国人と話してみたいという願望は強く持っており、それを学習意欲の向上に繋げることができるような工夫が必要である。

以下は、今年度12月に実施した1年次対象の英語科調査の結果である。

Q1) 英語は好きですか。

好き	どちらかといえば好き	どちらともいえない	どちらかといえば嫌い	嫌い
10%	13%	30%	23%	23%

Q2) 英語の勉強は大切だと思いますか。

そう思う	そう思わない	わからない
59%	16%	25%

Q3) 英語の授業の内容を理解していると思いますか。

理解している	どちらかといえば理解している	半分くらい理解している	どちらかといえば理解していない	理解していない
13%	28%	29%	20%	10%

(3) 中高連携を意識した実践

① 音声指導の重視とルーティーン化

1年次における、同一教材での指導の3年目。音声活動への生徒の取りかかりがよく、フォニックスを体感することで初見の単語を自ら発音してみようとする態度が見られるなどの成果が得られた。

使用教材	活用方法
RISE English Course 2016 英単語カレンダー（認定NPO法人リヴォルブ学校教育研究所）	「入門」、「初級」、「中級」3つのコースあり。毎時間、音と綴りの関連性を意識しながら発音練習をする。
リズムとパターンで覚える不規則動詞シート（同上）	暗記を目的とした発音練習と口頭英作文に取り組む。 （通年の課題として、綴り練習、辞書の活用による英文書写に取り組みせ、各期で評価する。）

② Focus on Form

教科書本文では内容把握に重点を置き、本文の和訳や文法の説明はほとんどしていない。文法指導はワーク等を使い必要に応じて行っている。「英語表現力検定」も活用した。

③ グループ学習

語彙、文法、本文の内容把握等、出来るだけ多くの場面で、ペアやグループ学習を実施している。発達障害等で他とのコミュニケーションを苦手とする生徒が多く、1対1だとうまく機能しないペアも散見されるため、グループ学習を実施する方が多い。

④ パフォーマンステスト

生徒たちが少しでも自信を持って英語を発することができるよう、パフォーマンステストも段階を追って実施した。1年次の前期は準備段階として音読テストを行った。テストは3段階準備し、自分の力に合ったレベルを選んで挑戦できるようにした。後期からパフォーマンステストを開始した。

下の表は、各年次で行った指導内容である。

年次	パフォーマンステストの内容
(1年次) コミュニケーション英語Ⅰ	教科書の題材に沿って、ALTとのインタビューテスト、スピーチ
(2年次) 英語表現Ⅰ、英語会話	教科書の題材に沿って、JTLとのインタビューテスト
(3年次) 英語表現Ⅱ	・教科書の例をもとにオリジナルの会話やプレゼンテーション原稿を作り発表 ・プレゼンテーションの内容に対して、即興で感想を述べたり質問したりする

評価の観点の基本は、Clear Voice, Eye Contact, Gestures, Smileである。

(4) 授業外での取組

① 英語検定

6月の第1回と1月の第3回の年2回実施している。

今年度6月は20名受験、準2級1名、3級1名合格。

今年度1月は受験者54名である。（1、2年次人文自然系列の生徒は全員受験）

（昨年度は2回実施で計113名受験、2級1名、準2級2名、3級23名合格）

② Reading Marathon

図書課と連携して、Oxford出版の読み物教材を難易度別に各種揃えて、Reading Marathonを実施している。全校生徒に周知し、希望者のみの取組だが、年度末に多読賞として表彰している。

12 成果と課題

(1) 主に中学校の実践研究について

① 小中連携を意識した中1での授業づくり

○小中連携が進み、小学校と中学校の懸け橋となっているALTからの様々なアドバイスで、中学

校での円滑な英語学習をスタートできた。

- コミュニケーションへの素地を培ってきた生徒たちは、英語で「話すこと」への抵抗感が低く、パフォーマンステストにも積極的に取り組み、話して伝わる喜びを多くの生徒が実感している。
- 中1の生徒の中にも、既に英語学習につまづきを感じ、意欲・関心が低くなってきている生徒もいるので、学習支援の工夫が必要である。
- 特に「書くこと」への苦手意識を訴える生徒が多いので、継続的なフォニックス指導やどの生徒にとっても分かり易い指導の工夫をする必要がある。

② 授業以外の取組で「英語使用の日常化」を目指すこと等

- イングリッシュ・カフェ等の廊下や階段を利用した掲示に係る質問紙調査では、1年生が最も多く「英語学習に役立っている」と回答した。また、3年生も徐々に掲示内容を意識して、学習に結び付けられるようになってきている。
- 質問紙調査の項目6「英検合格者の掲示が励み・刺激になっている」で肯定的回答した生徒が6-8割おり、受験者の増加につながっている。
- 「ファンレター・プロジェクト」や「スピーチコンテスト」の結果等から、指導者が創意工夫することで生徒の英語学習に対する意欲を高揚させることができることが分かった。
- 授業外の取組は、生徒の英語使用の日常化に向けた鍵となるようだ。イングリッシュ・カフェでの情報発信の中身を吟味するなどして、今後更に充実させたい。
- 英語科年間カリキュラム表を作成することで、実践内容・時期等の全体像が分かるようになり、より計画的に取組を推進することができるようになった。
- 展示については、生徒の興味・関心を高めるために定期的な情報更新や、ALTの掲示板を設けるなどの工夫が必要である。

③ 教科等横断的取組

キャリア教育及び国際理解教育の一環として実施した「国際理解教室」は、聴講後の生徒作文の記述内容から、殆どの生徒にとって英語学習の意義を理解する啓発的な体験となった。

(2) 主に高等学校の実践研究について

① 授業実践について

- 各小中学校の取組に倣い、ペアやグループ活動を多く取り入れ、生徒間でのコミュニケーション活動の機会を増やすことができた。相互の教え合いの中で、英語を得意とする生徒は人に教えることでより理解が深まっている。一方、苦手な生徒は分からないときにすぐに聞くことができ、双方の生徒に好評であった。
- 帯活動にフォニックスを意識した発音練習を取り入れ、文字と音との連携を図ったことにより綴りによる音の変化に気づき、初見の単語を自力で読もうとする態度が身についた者もいた。
- パフォーマンステストの評価方法を事前に周知することで生徒の意欲向上を図ることができた。また、好成績を得るために語彙や文法の必要性を実感し、学習意欲につながった者もいた。
- 単位数の多い科目ではペアやグループ活動、ALTとのTT、パフォーマンステスト等に到達目標に向かった様々な活動ができた。
- 読むこと、書くことは得意でも、コミュニケーション活動に消極的な生徒がいる。そのような生徒に持てる力を発揮させる工夫が必要である。
- 帯活動が単なる発音練習に終わらず、コミュニケーション活動に発展させる工夫が必要である。
- 2, 3年次では系列により単位数が異なるため、全ての系列で到達目標を意識した指導をするのは難しい(高度な言語活動への取組が可能なのは、人文自然系列に設置されている4単位の科目)。英語2単位のみの4系列(情報・経済, エコロジー・フード, ライフデザイン, 福祉・健康)に対する目標の設定が必要である。

(3) 中高連携の実践について

① 授業相互参観等

- 計画的に相互に授業参観を実施したことで、目指すべき授業のイメージを共有することができた。

- 中高共にペアやグループ活動を多く取り入れ、生徒間でのコミュニケーション活動の機会を増やすことができた。相互の教え合いの中で、英語を得意とする生徒は、他の生徒に教えることでより理解が深まっている。一方、苦手な生徒は分からないときにすぐに聞くことができ、双方の生徒に好評であった。
- 「英語表現力検定」はあらかじめ出題内容が示されていたので、どの学年の生徒にも取り組みやすいものとなった。
- 「英語表現力検定」について、実施時期を検討し一層計画的に取り組ませる必要がある。
- ② **8年を見通した学習到達目標の作成**
 - 各校種毎に作成していた学習到達目標を、8年間を通じて一貫した学習到達目標として作成することができた。
 - 学習到達目標を普通の授業に活用することができた。
 - 各学年で、CAN-DO形式の学習到達目標と年間指導計画（評価基準含む）の見直しと修正を適宜行っていく必要がある。
- ③ **パフォーマンステスト**
 - ルーブリックを設定し、「話すこと（発表）」及び「話すこと（やりとり）」でパフォーマンス評価を実施することができた。
 - 新単元導入の授業において、ルーブリックやモデルを示すことで、生徒は何をどのくらいのレベルでできればよいのかを理解でき、パフォーマンステストに向けてモチベーションを高め意欲的に練習に取り組むことができた。
 - パフォーマンステストの方法を事前に周知することで生徒の意欲向上を図ることができた。また、好成績を得るために語彙や文法の必要性を実感し、学習意欲につながった者もいた。
 - 「書くこと」についての実践研究が必要である。
- ④ **実践的研究に係る検証**
 - 生徒の意識等について客観的データを得ることができた。
 - 実用英語技能検定試験では、受験生徒数及び合格者数が漸次的に増加した。

<主な参考・引用文献>

中学校学習指導要領解説・外国語編（文部科学省）
 公益財団法人 中央教育研究所研究報告 No.82 平成26年4月30日発行
 カリキュラムマネジメントの考え方・進め方 加藤幸次著 黎明書房
 今求められる学力と学びとは 石井英真 日本標準